

## 身近にあるものでおもちゃ作り

SDGsの12番目の目標は、「つくる責任、つかう責任」。持続可能な社会づくりのため、限りある資源を大切にし、ごみを減らすことが今、一人ひとりに求められています。

そこで今回は、飲み終わった後の牛乳パックを活用した「お口パクカード」をご紹介します。牛乳パックに切込みを入れた部分を口に見立て、その周りに動物など好きなキャラクターを描き、口を開いたり閉じたりパクパクさせて遊びます。口の中に好きな言葉を書き込めば、メッセージカードにも。

このカードの考案者は、運動本部主催の工作教室で講師をつとめる有賀忍先生（板絵画家・絵本作家）です。当運動の青少年教育専門サイト『てらこあん』では、このほかにも紙コップやラップの芯など

を使ったおもちゃの作り方を動画で紹介しています。夏休みの工作などにぜひ、お役立てください。

なお5月21日、**福井県敦賀支部**（事務局・敦賀市教育委員会）では、「第41回親子のフェスティバル」（主催・青少年健全育成敦賀市民会議）でブースを出展。『てらこあん』の工作動画を紹介するとともに、厚紙を使って子どもたちに「お口パクカード」作りを体験してもらいました。

当日は、60名ほどの子どもたちが、身近な人に伝えるメッセージを添えたカードを作り、できあがった世界に一つのカードを、まるで宝物のように持ち帰っていました。皆さんの温かな気持ちが大切な人に届くことを願います。



どんな言葉を書こうかな? 「お口パクカード」



紙コップと牛乳パックで「ユラユラ人形」



敦賀市での体験の様子

「てらこあん」はこちら



## “未利用魚”を食卓に

## のんちゃんいろいろ体験記

「未利用魚」とは、知名度が低い、小さすぎる、傷がある、調理しづらいなど、味とは関係ない理由で流通していない魚のこと。漁師さんがせっかくなか獲っても、収益にならず海に返されたり、廃棄されたりしている魚は、世界の漁獲量の30〜35%にのぼるそうです。

一方、日本の漁獲量は、気候変動による海水温の上昇などの影響で、30年前に比べ3分の1程度に減っています。

こうしたことから、未利用魚を積極的に食べ、食品ロスや食糧不足の問題を解決するとともに、漁業や海の豊かさを守ろうという動きが世界中に広がっています。そこで私も、加工済みの未利用魚の宅配サービスを利用してみました。



私が利用したのは、未利用魚の定期便「Fishlle! (フィッシュル)」というサービスです。

これが、すでに切り身に味がされた状態で届くので、パパッと一品完成し、すこぶる便利！身は小さめですが、味が濃くとても美味でした。未利用魚といっても、冷凍技術の進歩のおかげで、「地魚」が新鮮なうちに食べられると考えれば、利用しない手はありません。ぜひ、皆様もお試しあれ！